



# 秋厚労ニュース

メール syukoro-kyosen@w3.dion.ne.jp

NO1805号  
2017年11月20日  
秋田県厚生連労働組合  
秋田市山王5-4-2  
TEL 018(864)3341  
FAX 018(864)3349

## 患者さんに

# 寄り添う看護したい

### 第24回秋厚労看護ゼミナール

去る11月11日（土）、秋田市の「ルポールみずほ」にて第24回看護ゼミナールが開催され、28名が参加しました。テーマ「知って得する認知症看護」についての講演とグループワークをとおして、「患者さんに寄り添った看護を明日からやってみよう」という気持ちになりました。



グループワーク

看護ゼミナールでは、生きがいを持って働くために、3つの基本方針、①看護師が患者さんをまわることとらえる、②看護師自身が人間として高まる、③看護の実践を科学的に追究する、のもとに1993年から学習しています。

今年度のテーマは「知って得する認知症看護」、講師は、秋田県立リハビリテーション・認知症看護認定看護師の北埜さつきさんです。

# 表情や仕草は言葉より伝わる



講師の北埜さつきさん

### 忙しい時ほど ゆっくり話そう

北埜さんは、認知症の人と接する時には、病気で判断力や理解力が低下しているの、看護師との意思疎通が重要だと話しました。

### グループワーク

## 明日から活かせる看護を学ぶ

グループワークでは、仕事の悩みや困ったことを出しながら、解決策を話し合いました。

認知症というだけで、転倒しないように身体拘束されている場合もある、という実態に疑問の声があげられました。

北埜さんからは、「患者さんが転倒してもケガが

感想アンケートより

### 日々の看護を振り返る機会となった

- ☆ 日々の看護の中での自分の行動を振り返る機会になり、反省点もありました。接し方、大切だなと感じました
- ☆ 忙しくなると「ひとりの人」として見ることが出来なくなるようなことがある。あつてはならないことだが、言葉かけ、ケアができなくなったりしている自分がいるように思う。とても考えさせられたお話しでした
- ☆ 認知症の患者さんが増えていると感じているので参考になった。尊厳と治療のバランスについて改めて考えさせられた

とを説明しました。

看護師は、仕事を時間内で終わらせようという責任感から、思わず声のトーンが上がり、早口になってし

まいがち。伝えるコツは、「忙しい時ほど、患者さんに向き合い、声のトーンを落として、ゆっくり話すこと」と教えてくれました。

なければ問題は無い」という考え方の転換をしてほしい。それが、皆さんの病院であてはまるかは、わからないが、観察したうえで身体拘束が必要なのか、チームで話し合うことが大事だと意見がありました。

また、「腹部のフォーレを抜いてしまう患者さんには、バスタオルを体に巻けば、

拘束時間を減らせる」、「声がけを、『やってください』から『手伝ってほしい』と変えることで、患者さんが快く応じてくれる」など、明日から活かせるアドバイスが幾つもありました。

参加者は、患者さんの気持ちに寄り添う看護の大切さを、再確認できたゼミナールになりました。